

60 緒方春朔『種痘必順辨』の
書名について

○富田英壽・手島 仁・熊本熙史・久賀興亜
田中泰博・久賀征哉・武井一剛

緒方春朔が寛政七年（一七九五）に著した『種痘必順辨』は、日本人による我が国最初の種痘専門書である。明治三十年に出された『善那氏種痘発明百年記念会報告』では、「是れ蓋し本邦第一の種痘書なり」とあり、又富士川游『日本医学史』の中でも、「本邦第一ノ種痘書ナリ」と述べられておる。春朔は、このあと『種痘緊轄』及び『種痘證治録』の二冊の種痘書を著している。

これ程医史学的に意義のある『種痘必順辨』の書名を、我国の文献の中で「順」とするものと「須」とするものとがある。手元にある文献を見ても次のようである。

「順」とするもの。

(一)『善那氏種痘発明百年記念会報告』明治三十年。

(二)富士川游『日本医学史』昭和十六年。

(三)小川鼎三『医学の歴史』昭和三十九年。

(四)熊本正熙『吾国の種痘と緒方春朔』昭和五十二年。

(五)酒井シヅ『日本の医療史』昭和五十七年。

(六)甘木朝倉医師会編『種痘必順弁』平成二年。

「須」とするもの。

(一)山崎佐『日本疫史及防疫史』昭和六年。

(二)浅野陽吉『種痘の祖贈正五位緒方春朔』昭和十年。

(三)藤井尚久『本邦疾病史』、日本学士院編『明治前日本

医学史』第一巻、昭和三十六年。

(四)藤野恒三郎『日本近代医学の歩み』昭和四十九年。

(五)三輪谷俊夫『わが国における種痘法の伝来と普及』、

加藤四郎編『天然痘ゼロへの道』昭和五十九年。

(六)藤野恒三郎『医学史話』昭和五十九年。

以上のごとく「順」とするものと「須」とするものが
半々である。

演者らは、平成十年に緒方春朔生誕二百五十年記念を
迎えるにあたり、緒方春朔が、恐ろしい痘瘡から一人で
も多くの子供達を救おうと、種痘のことを医者だけでな

く、一般人にも広く解つてもらうために、わざわざ和文にて書いたこの「本邦第一の種痘書」の書名は「順」であつたのか、「須」であつたのかこの機会に明らかにしたいと考えた。

調べ得た『種痘必順辨』は、次に挙げる五冊である。

一、秋月本（秋月郷土館蔵）

二、富士川游本その一（京都大学医学部図書館蔵）

旧富士川游氏蔵本で大正七年京都大学医学部図書館に寄贈されたもの。「呉氏蔵之印」が記されているので、富士川游氏の前の持主は呉秀三氏と考えられ、善那氏種痘発明百年記念会の資料展に出品されたものはこの本であろう。

三、富士川游本その二（京都大学医学部図書館蔵）

旧富士川游氏蔵本で昭和十五年に京都大学医学部図書館に寄贈されたもの。

四、平野運本（久留米市善導寺町平野運氏蔵）現在は、中

富記念くすり博物館に寄託されている。

五、藤野恒三郎本（内藤記念くすり博物館蔵）

藤野恒三郎蔵本で、現在、内藤記念くすり博物館

に寄託されている。

この五冊について次の事項を調べた。

一、表紙の書名

二、本文の頭にある巻首の書名

三、本文の最後にある巻末の書名

以上の調査研究とともに、他の資料にも検討を加えた結果、緒方春朔が著した『種痘必順辨』の書名は「順」であると考えられる。

（福岡県甘木朝倉医師会）